

消防団

自然災害への対応は

実践的な訓練を実施



宮入 健誠 議員

問 消防署との連携を図るための取り組みは。

町長 消防団活動には消



消防団 年末特別警戒激励式

防署との連携が不可欠である認識しており、団幹部は年度当初に消防署との連絡会議を開催しているほか、機会をとらえて消防署の職員とのコミュニケーションを図っている。

また、消防団の訓練に

は、必ず消防署の指導をお願いし、災害時に備え連携を図っている。

問 自然災害対応に向けた取り組みの状況は。

町長 消防団員は火災等、災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、これまでに培った経験を生かした消火活動・救助活動を行う非常勤特別職の地方公務員である。消火活動のみならず、地震や風水害等、多数の人員を必要とする大規模災害時の救助救出活動、避難誘導、災害防衛活動など、非常に重要な役割を担っている。

町消防団として、有事の際に迅速かつ的確に行動できるよう、町総合防災訓練への参加や、水防団として水防訓練の実施など、実践的な訓練を行うほか、地元地域で開催される防災訓練や出前講座などへ積極的に参加している。

座などへ積極的に参加している。

軟骨伝導イヤホンの活用は

各課窓口などで使用

窓口対応



中村 忠靖 議員

問 軟骨伝導イヤホンを導入した経緯と、今後の設置・活用予定は。

町長 利便性の向上に資するDXの推進と合わせて、様々な相談事や各種手続きなど、窓口での対応は欠くことができない。町では、ソフト面の対応として職員の接遇改

善をはじめ、老眼鏡・拡大鏡配置など、住民サービス向上のため、ハード面での対応環境の整備も進めてきた。

12月3日から、軟骨伝導イヤホンを福祉健康課の窓口配置し、利用を開始した。導入経緯は、耳の聞こえにくい方とのコミュニケーションの円滑化や、サービス向上の環境である。

今後は、DXの取り組みを含め、ハード・ソフト両面から取り組みを続けていきたい。



窓口配置された軟骨伝導イヤホン

公園の遊具について

問 インクルーシブ遊具の導入・検討は。

建設課長 インクルーシブ遊具は、多種多様な個性を理解、尊重し、障がいの有無・年齢・性別に関係なく、誰もが一緒に楽しめる空間で公園整備に必要な視点である。

今後、「町都市公園施設長寿命化計画」を踏まえ、先進自治体の導入経過や課題、利用状況を参考に研究していく。